

きょうと福祉倶楽部だより

2019年 1号

ベッドも車椅子も床擦れ予防用具も
すべてひとり一人の利用者さんに合ったものを探さなければ
良い結果は生まれません

きょうと福祉倶楽部が作られたのは16年前です。
それ以前にわたしが医療ソーシャルワーカーとして勤務していた医療機関での出来事を思い出しました。

その医療機関は一般科と精神科病棟を持つ中堅医療機関でした。
その院内でわたしは一般科を担当していました。
その当時病棟は褥瘡(とこずれ)を作る高齢者が多くいました。
現場は褥瘡を作るような看護はしたくないと懸命に努力をしていました。
でもできてしまう。
現場の仲間たちはその状態を改善したい。だから全力で努力していました。が、結果はでません。
戦略なしに良い結果が出るはずはありません。
褥瘡は—
栄養状態
圧迫
摩擦と濡れが発症の要因と言われます。
で、患者さんを観察すると、それを除去する手段は当然とっています。
栄養状態は栄養科職員によって作られたおいしい食事を看護スタッフが努力して与えています。
圧迫は体位の変換をこまめにやっています。圧を除去するエアマットもあります。それでも改善できないのは何が原因かと患者さんの周辺をさらに観察してみます。それで圧を開放する器具(床擦れ予防用具)に問題があることがわかりました。

その医療機関では用度課という部署が現場で必要とするものを「安く」入手することが仕事になっていました。用度課が現場に手当した床擦れ予防用具は一時代前の考え方に立った商品。圧を開放する機能は非常に弱い商品でした。この「安くろう、悪くろう」商品が現場の努力を台無しにしていたのです。そこでわたしはあらたな機器の導入を提案しました。でも「けちんぼ」な管理職は簡単には変更を認めません。そこで現場に無償でメーカーからあらたな機器を貸与させてモニターしてみました。すると百聞は一見にしかず、患者さんの褥瘡はみるみる改善していったのです。

まずはその結果に現場の看護師たちが驚きました。あれだけ苦労しても器具を変えただけで大きな変化があったのですから。そうすると患者さんをよくしたい現場は燃えます。看護師パワーで管理者に交渉、ついに全面機種変更にいたしました。

この事を皆さんに紹介したのは、皆さんは福祉用具をひとくりにしていませんか?という問題提起です。

たとえば車椅子も様々な形がありますよね。不適切なものに座ると正しい姿勢が取れず患者さんの体調悪化にも繋がります。それだけでなく介護の手間を増やすことも起こるのです。だから福祉用具の選択は「○○さんに合った福祉用具」を探さなければならないのです。

それをやらない福祉用具貸与事業所が残念ながら存在します。

ならばわたしたちが適切な商品を探す力を持つことが求められます。

画像は
社会福祉法人 南東北福祉事業団
総合南東北福祉センターのホームページより拝借した仙骨すわりの画像です。
このような状態は車椅子の選択や、車椅子付属品などを適切に組み合わせれば改善出来ます。



〒617-0824
長岡京市天神 4 丁目 7-12 ハイッ
東台 101 号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail info@fukushi-club.com

有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部